

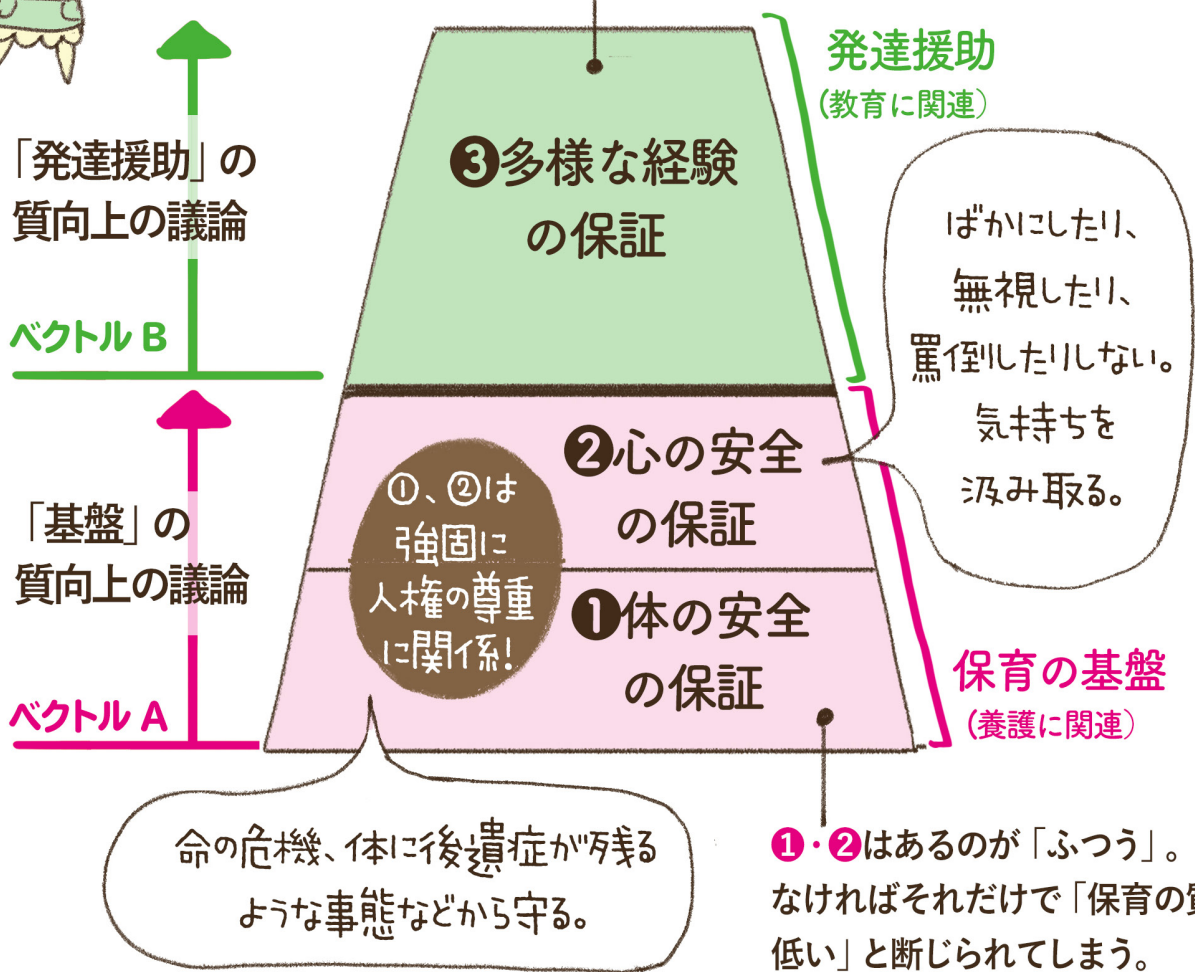
分けて考えたい 保育の質の向上議論（模式図）

保育の質の議論には、以下のような複数のステージがあります。ここでは、「直接的な保育の質」を対象にし、それをさらに「保育の基盤」と「発達援助」に分けて考えます。



「子どもへの直接的な保育」の質	保育記録や保護者対応、同僚性など「間接的な保育」の質	配置基準や資格の有無など「制度上の保育」の質
-----------------	----------------------------	------------------------

保育の質が高いかどうかは、この③で判断される。下の①・②はあって当然。ふつう。

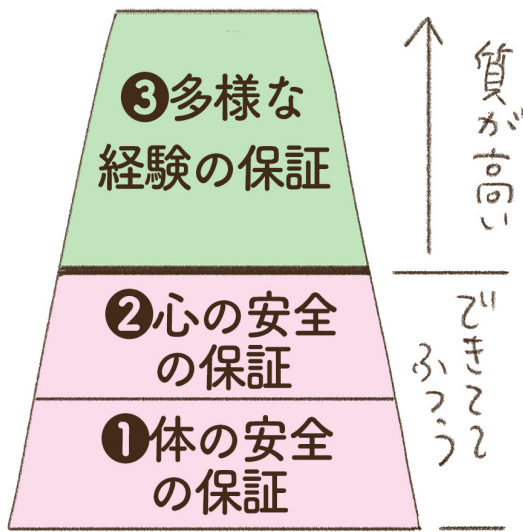


注：軽度なケガへの過度な忌避は、経験の質を落としかねない。

保育の質の向上について考えるとき、自園の課題は何なのか、「どの質向上の議論が必要なのか（ベクトルA？B？それとも？）を確認し、議論がぶれず、時間が有効に使われると思います。



具体例



「人権」の明確な定義はないが、「体や心が傷つかない」ように配慮*されることは、人として生きる上で、最低限の「人権」と考えたい。

①体の安全の保証がされていないケース

高いところにいるのに、先生が近くで見てない! おまけに、ひもバッグを首から下げたまま! (死亡事故ありましたよね)

②心の安全の保証がされていないケース

先生「うるせえよ。折紙なんかなえよ。」
「自分でとってくりゃいいだろ?」
もしくは、無視。

①、②が保証されない段で、即「保育の質は低い」と言わざるを得ない。

①、②が保証されている、保育として「ふつう」と思われるケース

① バッグは「あぶない」ことを伝え取らせる。近くで警戒しつつ見守っている。

② 「ごめんね、今、折紙ないんだ」
「私、ここを離れられないから、今度ね」。

↑ここで言う「ふつう」は一般の保護者どもしてる、できるという事です。

③が保証されていると思われるケース

先生は「ここからヒコウキを飛ばしたい」という今のこの子の願いを叶えようと(体験を保証しようと)、考えを尽くす。
「折紙ないんだけど、別の紙でもいい?」
「ひとりですべり台の上は危ないから、一緒に取りに行く?」
もしくは、それまでの興味から見越して、折紙を用意しておく。

*すべての人が納得する「保障」は困難。
ただし、「配慮は尽している」と説明できるようにしておきたい。